

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 帝王切開脊髄くも膜下麻酔時にモルヒネの添加が呼吸に及ぼす影響の検討

研究の目的

当院で帝王切開術は近年、背中に針を刺して下半身麻酔（脊椎麻酔）を施行しています。この際、局所麻酔薬に長時間作用するモルヒネを添加することで術後の鎮痛効果を高めることができます。その一方でモルヒネにより長時間呼吸が弱くなったりしづらくなる現象（呼吸抑制）に注意が必要になります。呼吸抑制の確認には経皮的酸素飽和度の計測が最も簡易的ですが、経皮的酸素飽和度が低下した際には重篤な呼吸抑制がすでに生じている場合があります。今回、呼吸数や呼気中の二酸化炭素濃度の測定結果と呼吸抑制との関連を調査し、必要最小限なモルヒネの添加量を検討することで、より安全な周産期管理の施行が可能となります。

研究実施期間： 年 月 日 ~ 2026年 3月 31日
（倫理委員会承認日）

対象となる方： 2015年1月～2022年12月までの間、附属病院産婦人科を受診し、脊椎麻酔で帝王切開術を受けた方

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、手術時間や麻酔時間、脊椎麻酔レベル、呼吸数や経皮的酸素飽和度、採血結果について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、脊椎麻酔施行後の呼吸数の変化や経皮的酸素飽和度の推移を検索しモルヒネ投与後どの程度影響が残存しているか検討します。また、血液ガス分析の結果と呼吸苦等の主観的な訴えと併せて呼吸状態を評価します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータの

みを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先

大学院医学研究科麻酔科学講座・野口智子
0172-39-5113/nogusato1110@hirosaki-u.ac.jp